



女帝 エンペラー(夜宴 / THE BANQUET)

2007(平成19)年3月29日鑑賞(試写会・三番街シネマ)

監督=馮小剛 / 原案=ウィリアム・シェイクスピア『ハムレット』 / 出演=章子怡 / 葛優 / 吳彦祖 / 周迅 / 馬精武 / 黃曉明 (ギャガ・コミュニケーションズ、Powerd by ヒューマックスシネマ配給 / 2006年中国、香港映画 / 131分)

……中国の人気監督馮小剛が、それまでの軽妙な作風をガラリと変えて挑んだ最新作「中国版ハムレット」は、邦題のとおりアジアの珠玉章子怡が主役！そして先帝を殺害し、その妻まで奪おうとする権力欲に満ちた新帝役は、馮小剛監督に欠かせない名優の葛優。時は五代十国時代。父と子・兄と弟、皇室内部でうごめく欲望・陰謀・裏切りの渦の中、若き王妃はいかなる策略を……？そして原題である『夜宴』が盛大に開かれる中、王妃の企む復讐劇はどんなクライマックスを……？豪華絢爛たる時代絵巻と赤を基調とした映像美、そして壮絶な人間ドラマは見どころいっぱい！

第5章

アジアは才能の宝庫

1日おきに続けて馮小剛監督作品を

3月27日の『イノセントワールド—天下無賊—』(04年)に続いて、今日3月29日にも、馮小剛監督の最新作『女帝 エンペラー』を鑑賞することに……。お正月映画の第一人者であり、中国でNo.1の興行収入を誇る国民的監督馮小剛の作品は、『ハッピー・フューネラル』(01年)や『イノセントワールド—天下無賊—』など軽妙でおしゃれな作品が多いが、この『女帝 エンペラー』は別。

1958年生まれの馮小剛監督が、8年先輩の張藝謀監督の『HERO (英雄)』(02年)や『LOVERS (十面埋伏)』(04年)、そして6年先輩の陳凱歌監督の『始皇帝暗殺』(98年)や『PROMISE』(05年)を明らかに意識してつくったのがこれ。そのことは、アクション監督の袁和平、美術・衣装の葉錦添そして音楽の譚盾と

のコラボレーションを見ても明らか……？ そんな、作風が全く異なる馮 小 剛監督フォン・シャオガンの2つの作品を1日おきに続けて鑑賞できたのは、実にラッキー……。

『ハムレット』の中国版の主演は……？

シェイクスピアの『ハムレット』は父親を殺され、母親ガートルードまでも奪われたデンマークの王子ハムレットが、苦勞の末に叔父（父の弟）クローディアスへの復讐を果たす物語。そんなシェイクスピアの最高傑作に目をつけ、それを中国バージョンで描こうとした馮 小 剛監督フォン・シャオガンは、その主演をハムレットではなく、先帝の王妃ワンとしたうえ、王妃ワンの年齢を大幅に若返らせ、中国の珠玉章 子 怡チャン・ツイイーをその主演に据えた。また、ハムレットを義理の息子とすることによって、王妃ワンと皇太子ウールアングニエル・ウー（呉彦祖）との恋を禁断の恋、近親相姦にしない工夫も……。

そんな大胆な中国版『ハムレット』の舞台は雪深いデンマークではなく、907年に唐王朝が滅亡し、五代十国時代の戦乱渦巻く10世紀の中国大陸。デンマークのお城とは全く異なる、「これぞ中国王朝」と自慢するかのような壮大な宮殿の中できり広げられる人間ドラマは見どころいっぱいだが、あくまでその中心は王妃ワンを演ずる章 子 怡チャン・ツイイーに……。

やはり葛 優グオ・ヨウが

馮 小 剛監督作品に欠かせない名俳優が葛 優グオ・ヨウ。したがって、『女帝 エンペラー』でも、先帝を殺害したうえ皇太子の殺害を命じ、さらに先帝の美しい妻ワンを手に入れようとする新帝リー役は当然この葛 優グオ・ヨウ。原版『ハムレット』のクローディアスと同じように、新帝リーは先帝の弟。そして、五代十国時代における宮廷内の父子・兄弟をはじめとする親族間の権力争いは、小泉内閣における抵抗勢力との抗争や刺客騒動をはるかに超えたすごいもの……。

権力へのあくなき欲望と王妃への愛欲、そして権力維持のための緻密な計算と非情な決断、そんな冷徹な新帝リーの複雑な内面を葛 優グオ・ヨウが実に味わい深く演じているが、リーの精神構造にも意外な一面が……。すると、それが彼の命取り……？

オフィーリア役は周 迅ジョウ・シュン……？

『ロミオとジュリエット』におけるジュリエットと同じように有名なヒロインが、

原版『ハムレット』におけるオフィーリアだが、『女帝 エンペラー』でハムレットの恋人であるオフィーリア役になるのは、皇太子ウールアンの許嫁であるチンニージョウ・シュン（周 迅）。もっとも、ウールアンが王妃ワンを想い、ワンもウールアンを想っていることをよく知っているチンニーの愛は、ひたすらウールアンに捧げる愛だから、権謀術数渦巻く宮廷の中で、彼女1人だけが一服の清涼剤……。

そんな役に最もふさわしい中国人女優は、『始皇帝暗殺』で盲目の少女を演じて強い印象を残し、その後『ふたりの人魚』（00年）、『ハリウッド★ホンコン』（01年）、『小さな中国のお針子』（02年）、『ウィンターソング』（05年）で常に可憐な役を演じている周ジョウ・シュン 迅。ホントは1976年生まれの周ジョウ・シュン 迅の方が、1979年生まれの章チャン・ツイイー子 怡より年上なのだが、あくまで堂々とした章チャン・ツイイー子 怡に比べ、純情可憐な周ジョウ・シュン 迅の方が若く少女っぽい感じ……？

3代続いた名宰相だが……？

『三国志』で有名な蜀の国において、劉備玄徳に仕えた諸葛孔明は名宰相中の名宰相だが、先々代、先代そして新帝リーと3代続けて宰相として仕えているイン宰相マー・チンウー（馬 精武）はある意味立派だが、ある意味風見鶏の典型……？ チンニーの父親はそんなイン宰相だから、新帝への権力移行によって、チンニーがウールアンの許嫁であるのはマズイと悟ったのは当然。そこで、イン宰相はチンニーに対して、ウールアンとの結婚をやめるよう命じたが……？

さらに、イン宰相にはイン・シュン將軍ホアン・シャオミン（黄 曉 明）という文武両道に秀でた息子がいた。チンニーの兄であるシュン將軍は誰よりも妹を愛していたが、権力構造が複雑に揺れ動く中、的確にその流れに乗っていくことは若いシュン將軍には到底ムリ……？ 優秀な將軍と美しい皇太子の許嫁という立派な息子と娘を持ちながら、トップの権力抗争の中に否応なく巻き込まれていったイン宰相の末路は……？

『007は二度死ぬ』が、ウールアンは……？

先帝を殺害した新帝リーの次のターゲットは皇太子のウールアンだが、映画を観ている限り、リーは少なくとも3度ウールアンの殺害に失敗……？

この映画の最初のハイライトシーンは、ワンへの想いを断ち切って、1人呉越の地に生きるウールアンに対して放たれる、近衛兵を中心とする刺客との攻防戦。顔にそ



©2006 Media Asia Films (BVI) Ltd. Huayi Brothers Film Investment Co., Ltd. All Rights Reserved.

ろいの面をつけ、真っ白な衣装を着て幻想的な踊りを見せていたウールアンたちを襲った近衛兵によって、今度は真っ赤に血塗られた華麗なる(?)戦いが開始されるが、所詮多勢に無勢。ウールアンたちは全員殺害された……。はずだったが……？

ウールアンの2度目の危機は、王妃の皇后への即位式における演武の舞台。多数の近衛兵を相手に華麗な太刀回りを見せるウールアンだったが、その大前提は木剣による演武。ところが途中からなぜか真剣が……。こりゃヤバイ……？

そして、ウールアンの3度目の危機も、王妃ワンによるチンニーを人質としたある策略によって、何とか生き残ったから、『007』のジェームズ・ボンドは2度死んでも、ウールアンは……？

映像美の美しさは圧巻！

『HERO (英雄)』を契機として、最近の中国の大作の映像美はすごい。中国三千年の歴史の中、紀元前から国同士の抗争をくり返していた中国大陸においては、過去多数の王朝が成立したが、その宮廷文化の規模と華やかさは、日本の平城・平安時代のほぼ10倍……？ また、中国人は昔から赤が好き(?)だから、スクリーン上で観る赤を基調とした映像美は最近特に際立っている。

とりわけ、この映画で私の印象に残った映像美は、①鎧兜で身を固め、馬にまたが

った近衛兵と王の身辺を守る近衛兵たちの美しさ、②呉越の地に隠遁して歌と踊りの世界に生きているウールアンたちの、面をつけた踊りの幻想的な美しさ、③ワイヤーアクションを駆使した、舞踊と融合させた武闘劇の美しさ。そんな美しい映像が壮大なスケールの宮廷の中で展開されていくから、この映画本来のテーマである人間ドラマとしての復讐劇の他にも楽しみが……。

ちなみに、2001年8月に、私が西安の華清池^{かせいち}で見学した楊貴妃が玄宗皇帝との愛を育んだ蓮華湯や楊貴妃専用の湯浴み・海棠湯と同じような大きな浴槽の中に真っ赤なバラの花を敷きつめ、そこに章子怡^{チャンツイイー}が後ろ姿ながら、一瞬オールヌード姿を見せて入っていくワンシーンは絶対見逃せないもの……。それにしても、巨額の費用をかけたこんなシーンがわずか一瞬とは……？ さすが中国の大作は規模が違うものだと実感……？

邦題と原題、どちらがベター……？

この映画の原題は『夜宴』（『THE BANQUET』）。したがって、中国人留学生とこの映画の話題となった時、当初全く話が通じなかったが、ああ、あの『夜宴』かということに納得し、以降やっと通じ合うことに……。この映画の壮大な見どころは2つあり、1つはワン王妃の皇后への即位式。そしてもう1つは、この映画のクライマックスとなるラストの夜宴。これは、何度も殺し損ねていたウールアンをやっと殺害したという報告をシュン將軍から受けた新帝リーが、それを祝うため国をあげて開催したもの。したがって、映画の流れからすれば、『女帝 エンペラー』よりも『夜宴』の方がベター……？

もっとも、既にシャンプー「アジェンス」のコマーシャルや『SAYURI』（05年）への出演等で日本でも有名になっている章子怡^{チャンツイイー}を前面に押し出してアピールするためには、『女帝 エンペラー』はいかにもピッタリ……。しかし、「女帝」というと中国では必ず、漢代の呂后、唐代の武則天と並んで「中国の三大悪女」の1人である清朝末期の西太后をイメージしてしまうらしいし、日本では満州国皇帝となった「ラスト・エンペラー」の溥儀をイメージしてしまうから、その利害得失は……？

『夜宴』の行方とちょっと不思議なラストシーンに注目……？

感動しながら観た余韻のままに、かなり詳しくこの映画の見どころを書いてきたが、

最後のクライマックスである「夜宴」のシーンについては、その詳細を書くことを控えたい……。もっとも、ひと言だけ言えばここでのポイントは毒。この時代にもヒ素はあったようだが、それよりも強力なのはサソリの毒らしい……。そうすると、誰がそれ入手し、どのように活用を……？

そして「夜宴」最大の見どころは、即位式の時と同じように舞台上で演じられるチンニー率いる歌舞団による踊り。廣大できらびやかな宮廷を舞台としてくり広げられる超豪華な夜宴の席で待っている、シェイクスピア流のそしてフォン・シヤオガン馮小剛監督流の悲劇的結末とは……？ 固唾を吞んでその成り行きに注目しよう。さらに、一件着落したかのように見えた後の、ちょっと不思議なラストシーンにも……。

2007(平成19)年3月30日記



「女帝」
好評発売中 3,990円
発売元/販売元：ギャガ・コミュニケーションズ
© 2006 Media Asia Films (BVI) Ltd. Huayi Brothers Film Investment Co., Ltd. All Rights Reserved.